

木製バット 使用ルールについて

高校野球特別規則

1. 高校野球で使用できるバット

高校野球（硬式・軟式）で使用できるバットは次の通りである。

(1) 認可の種類

- ① 木製バット
- ② 木片の接合バット
- ③ 竹の接合バット
- ④ 金属製バット



▽ 金属製バットは、一般財団法人製品安全協会の定めたSG基準に適合した、SGマーク(右図参照)添付の製品に限る。

また、2022年度、2023年度は2001年秋から適用された基準(規則3.02(a)

【注3】)のものおよび2022年2月18日に規定した新基準のものとする。

なお、2024年度シーズンインからは新基準のバットに完全移行する。

▽ 軟式野球で複合バットの使用はできない。

(2) 色彩

① 使用できる木製の着色バットは以下の通りとする。

ア) 黒色・ダークブラウン系・赤褐色系および淡黄色系とする。

イ) 木目を目視できるものとする。

ウ) 拙劣な塗装術を用いていないものとする。(例えばボールに塗装が付着するなど)

② 金属製バットの本体色は硬式では、シルバー系、ゴールド系またはブラックとし、軟式では単色とする。ただし、プレイを妨げとなるような反射するものは認めない。

③ 金属製バットのツートンカラーのものは認めず、一色とする。

(3) その他の注意

① 鉄棒、バットリング、滑り止めスプレーなどをベンチ内に持ち込むことを禁止する。

② 金属製バットの表面にへこみ、ヒビ割れ、グリップのゴムや皮にゆるみ、破れがないか注意すること。(規則3.02)

高校野球用具の使用制限

■ 木製バット

木の自然色の他、着色バットの使用を認める。

ただし、使用できる着色バットは、全日本野球協会・アマチュア野球規則委員会運用基準によるものとする。

➡ B F J マーク表示バットの使用はOK

➡ N P B マーク表示バットの使用もOK

◇ B F J マーク表示基準

① 下記の色が認められる。木目が見えること。

- ・バットそのものの素材の色（ナチュラル）
- ・ダークブラウン系
- ・赤褐色系
- ・淡黄色系
- ・黒色（墨黒）※

② 許可された色同士の2色（ツートンカラー）とすることができる。その場合はバットの握り部分端から45.7センチ以内を境界線とする。



③ バットの握り部分端から45.7センチより先端がナチュラルカラーの場合に限り、その範囲内にフレームテンパー（焼加工）を施すことができるものとする。焼きの濃さはBFJマークの表示が容易に見える程度までとする。



④ 拙劣な塗装技術を用いていないものとする。（例えば、ボールに塗料が付着するなど）

※ 散孔材にて黒色を使用する場合は木目が見えないため、バットの握り部分において木目が見える色を使用すること。その場合はバットの握りの部分端から45.7～44.2センチを境界線とする。

例) メープル、バーチではブラックを塗装すると木目が全く見えないので、グリップ部で木目を確認する

* 上記③の例のグリップ部分は、ブラック塗装だが、材料がホワイトアッシュのため、木目確認が可能



※ 軟式の試合に限り、B F J マーク表示のない軟式木製バット（ただし、木目が目視できること）の使用を認める。

■ 木片の接合バット、竹の接合バット

高校野球特別規則(2)、①、イ) に準じて「木目を目視できるものとする」バットを試用可とする。

(例)

- ① 合板バット 木目が見える グラスファイバー (折れにくくするため)

試合OK



- ② 合板バット 木目が見えない (ブラック全塗装)

試合NG



- ③ 合板バット+グリップ部グラスファイバー補強
グリップ部の木目が見えない

試合NG



- ④ 打球部木製、グリップ部FRP 木目が見えない
(練習用バットとして販売)

試合NG



➡ 合竹、合板、樹脂加工バットの場合、木目の確認ができれば試合での使用可能